



活動報告

がん患者支援のためのピアサポーター育成研修

平成26年7月4日, 18日

東北大学病院がんセンターがんセンターボード室
東北大学医学部臨床講義棟第1.2ゼミナール室



「ピアサポート」とは、がんという病気を体験した人やその家族などがピア(仲間)として、がん患者と「病気を共有し、ともに考える」役割を果たすことで、患者が病に向き合うことを支援します。そのピアサポートを行う人を「ピアサポーター」といいます。

今回で2回目となるピアサポーター育成研修には、気仙沼や大崎地域などの遠方からご参加いただき、24名の皆さんが2日間にわたる研修課程を修了しました。

研修では、「ピアサポーターの基礎的な知識とよりよいコミュニケーションを学ぶ」を目標に、講義と研修教材DVDの視聴、グループワークや模擬相談のロールプレイを行いました。

参加者からは、「相談場面のロールプレイを体験し、ほかの参加者からアドバイスがもらえたことがよかった」や「ピアサポーターの役割でもある【話を聞く】ことの大切さを痛感した」などの感想を多くいただきました。

ピアサポーター育成研修に参加して(感想)

大崎市民病院 総合医療支援センター 相談支援室
がんサロン 福島美香さん

当院が新病院に移転し、新しく常設となったがんサロンの担当をさせていただいておりますが、お恥ずかしながら、「ピア」、「ピアサポーター」という言葉の意味を知らない状態で、今回この研修に参加応募させていただきました。

参加者のほとんどのみなさんが「ピア(がん体験者、またそのご家族)」ということで、たくさんの体験談、経験談を聞くことができ、大変有意義な時間を過ごせました。また、研修を通して、ピアサポーターとしての心構え、話の傾聴の仕方、話し方、立ち振る舞い、服装、安心できるスペースの提供の仕方など、ためになることをたくさん学ばせていただきました。

私もサロンに常勤させていただいて常に思うのですが、やはり、患者さんやそのご家族は、「話したい!」「話を聞いてほしい!」というエネルギーを強くお持ちです。そこで、「ピア」が患者さんやそのご家族の話を傾聴する、話を聞いて寄り添うことの重要性を強く感じております。

ピアサポーターという名称、活動内容が世間に周知されてないため、研修を受けてもピアサポーターが活躍できる場所は今現在あまりないということですが、今後もこのような研修が増え、またピアサポーターが活動できる場所が増え、そして苦しんでいる患者さんやそのご家族が少しでも不安から解放されて過ごせることを心より願っております。

このような研修に参加させていただき、感謝しております。今後もぜひ研修に参加させていただき、私自身もピアサポーターとして一人でも多くの方に寄り添えられたらと願います。



平成26年度 第1回 宮城県がん患者会・サロン情報交換会

平成26年7月28日 宮城県庁18階 1802会議室

現在、宮城県内には27団体・施設のがん患者会・サロンがあり、それぞれの地域や施設で患者支援活動を行っています。しかしながら、県内の患者会・サロンが横につながって活動するまでには至っていません。

そこで今回は、各患者会・サロンの活動状況を互いに知ることを目的に、日頃の活動内容を6団体・施設の皆さんからご報告いただきました。併せて、これからの患者会・サロンの横のつながりのあり方

についてグループワークを行いました。グループワークでは、様々な意見が出され、「バラバラでは苦しいので、連携していけるとよい」という意見が多い一方で、「交流の場はほしいが、連携の必要はない」という意見もありました。患者会・サロンの皆さんの「これからの宮城県の患者会・サロンをどうしていきたいか」という想いを大切にして、引き続き情報交換会の場を提供していきたいと思えます。



宮城県版がん情報ポータルサイト「がん情報みやぎ」

開設1周年 情報更新のご協力をどうもありがとうございました



このたび、当サイトオープン1周年の節目として掲載情報の更新作業を行いました。情報更新にご協力いただきました県内の病院・診療所等の医療機関、がん相談支援センター、訪問看護ステーション、患者会・サロンの皆様に厚く御礼を申し上げます。

オープン以降、当サイトのアクセス総数は54,000、ページビュー数は150,000PVにのぼり、宮城県内のみならず、東京、大阪、名古屋、札幌等の県外からも多くご覧いただいております。最近では「緩和ケア」をキーワードとして当サイトをご覧になれる訪問者の方が増えており、患者や家族の「緩和ケア」についての関心の高さが伺えます。

平成25年7月にオープンしました宮城県版がん情報ポータルサイト「がん情報みやぎ」は、おかげさまで開設1周年を迎えることができました。これもひとえに、当サイトに情報提供下さいました宮城県内外の皆様と当サイト作成ワーキンググループメンバーの皆様のおかげです。どうもありがとうございます。

これからも、宮城県のがん患者と家族の皆様のお役に立てる情報を発信していけるよう、皆様からご意見を頂戴しながら当サイトの運営を行ってまいります。今後とも、ご支援とご協力賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

がん患者を地域で支えるための支援者研修会

平成26年9月4日 TKPガーデンシティ仙台 (AER30階)

宮城県内のがん患者支援に携わる関係者を対象に、「がん患者を地域で支えるための支援者研修会」を3回コースで開催いたしました。本研修は「がん患者と家族を取り巻く現状とケアについて学び、そのうえで多機関・多職種協働の必要性を理解して、県内全域で多機関・多職種が協働しがん患者支援に取り組む一助となること」を目的としています。

第1回目となる今回は、「がん医療とがん患者支援の現状を学ぶ」ことを目標に、当推進室 森隆弘室長から「がん治療の現状と地元でがん患者を支える必要性」について、当院がん診療相談室 本間とし子相談員から「がん相談支援センターの取り組みとがん患者が抱える悩み」について講演がありました。

今回の研修会には130人の方々にご参加いただき、参加者の職種内訳は看護師、薬剤師、保健師、社会福祉士、介護福祉士、事務職等で、その半数がケアマネジャーとしてがん患者支援に携わっている方々でした。

アンケートからは、「がん患者の急な状態変化の対応が難しい」や「多機関・多職種連携が十分に機能していない」という声が多く聞かれ、特に病院と地域間の連携の難しさを訴える声が多く聞かれました。また、「当事者の話を聞きたい」や「具体的な事例について学びたい」など、患者支援について必要な知識を学び得たいという意見も多く、がん患者に携わる支援者のための支援体制を検討していく必要性を改めて強く感じました。



がん患者支援者研修会に参加して(感想) 向陽台地域包括支援センター 安藤やす子さん

研修会に参加させていただき、先生方のお話から、がん患者は年々増えており、治療の進歩によって生存期間が延長していることが理解できました。また、国の「がん対策基本法」に基づき、宮城県内には「がん診療連携拠点病院」を中心とした「がん相談支援センター」が19カ所設置され、患者さんやご家族の相談に対応しており、最近ではがん患者就労支援の体制ができていく病院もあることがわかりました。

「がんになっても安心して暮らせる社会」の構築をめざして、東北大学病院のがん診療相談室の取り組みが紹介され、①就労支援の取り組み ②がんピアサポーター研修 ③がんサロン ④がん相談支援センターの広報、周知など活動を実施していることがわかりました。私はこれまでがん相談支援センターがあることは知っていましたが、このような幅広い活動内容までは知りませんでした。



地域包括支援センターでの日々の仕事の中では、がん患者さんが病院を退院後、在宅生活に入って初めてたくさんの困った出来事にぶつかることで、本人や家族から相談されることが多くなっています。もう少し早くから相談や調整が出来ないものかと思うことが多々あります。医療機関は治療が終わればそれで退院となりますが、自宅に戻ってからの生活、介護体制などを確認していただければ、患者さんはもっとスムーズに安心して在宅生活ができると思います。患者さんが住み慣れた地域で暮らすためには、地域住民の理解や医療機関、福祉との連携がますます必要になってきていると感じています。

私たちも常にいろいろな情報をキャッチして、患者さんや利用者さんに伝えていかなければならないと改めて感じました。

今後の活動予定

がん患者を地域で支えるための支援者研修会

対象： がん患者支援に携わる医療・保健・福祉・介護関係者(各回定員150名)

申込方法： 当推進室までFax・Eメール・電話にてお申し込みください

会場： TKPガーデンシティ仙台(AER30階)ホールD

日時	目標	内容(仮)	講師
平成26年 10月30日(木) 13:30~ 16:00	がん患者の身体的・ 精神的ケアと 緩和ケアを学ぶ	緩和ケアとがん患者・家族への 支援	東北大学病院緩和医療科科長 特命教授 中保 利通 氏
		がん患者会・サロンの支援活動 の取り組み	ホッとサロンとめ 代表 鈴木 玲子 氏
平成26年 12月4日(木) 13:30~ 16:00	がん患者支援の 多機関・多職種連携 を学ぶ	がん患者支援の多機関・多職種 連携の実際と各機関・専門職に 期待したいこと	医療法人社団 爽秋会 岡部医院 院長 佐藤 隆裕 氏
		多職種連携のポイントと地域包 括ケアシステムの構築をめざ して	東北大学大学院医学系研究科 保健学専攻公衆衛生看護分野 助教 田口 敦子 氏

がんの患者と家族のための研修会

がんには振り回されないための患者力

～実は患者さんたちにできる工夫はたくさんある～

日時：平成26年11月1日(土) 13:30～15:15

場所：TKPガーデンシティ仙台(AER30階)ホールD

対象：がんの患者・体験者、家族、支援者、

どなたでも(定員150名)

講師：宮崎善仁会病院 医師
NPO宮崎がん患者共同勉強会理事長
押川 勝太郎 氏

参加費：無料

申込方法：当推進室までFax・Eメール・電話にて
お申し込みください

編集後記

COP通信をご覧頂き、誠にありがとうございます。

前任者より推進室の事務業務を引き継ぎましてから、早や半年が過ぎました。本プロジェクトについては、2年間でこれだけの活動を展開してきたことに大変驚くとともに、これも学内外多くの皆様のご支援・ご協力の賜物と厚く御礼申し上げます。私自身、がんの母を見てきた経緯があり、心を込めて関わりたいプロジェクトと思っております。スタッフ一同心を合わせ、皆様からご意見を頂きながら学習し、宮城県内がん患者さんの真の支援に繋がる活動となりますよう、日々精進したいと存じます。今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。(事務：高橋 恭子)

【発行元】

東北大学病院がんセンター
先進包括的がん医療推進室

〒980-8574 宮城県仙台市青葉区星陵町1-1

Tei: 022-717-8885 (直通)

Fax: 022-717-8886

E-mail: cancercenter@hosp.tohoku.ac.jp

【編集委員】

真溪淳子 / 吉田久美子 / 高橋恭子

